地域住民の学習要求
—公開講座アンケートの分析を通して—

Needs for learning of inhabitants in Wakayama
—Through the analysis of the enquiet on extension lecture of university —

遠藤秀機（教務委員会）
市川純夫（教務委員会）
加藤　弘（教務委員会）

1．はじめに

本学部に於ける公開講座の歴史は古く，学芸学部時代の昭和２５年まで遡る事が出来る。開催場所も大学にとどまらず田辺市においても行われており，以後，海南市，新宮市でも開催している。昭和４０年代には一時中断したものの，昭和51年から再び，公開講座を実施してきている。再開後の公開講座の内容および開催地は【資料－１】に示す通りである。

資料－１【教育学部の公開講座の内容および開催地】

開催年度	講座内容	開催地
昭和51年	くらしの科学	和歌山市（大学）
昭和53年	和歌山の風土と文化	和歌山市（大学）
昭和55年	子供の発達と学力	和歌山市（大学）
昭和57年	世界からみた日本の文化，教育	和歌山市（大学）
昭和59年	未来にむけての教育	和歌山市（大学）
昭和61年	身の回りの不思議　紀州～その歴史と風土～	和歌山市（大学）
昭和62年	自然科学と人間　熊野の文化と歴史	新宮市
昭和63年	現代社会と教育　熊野の文化・歴史・自然	新宮市
平成元年	現代科学入門　和歌山の文化・歴史・自然	新宮市，橋本市
平成２年	共に学ぼう　～伝統と現代～	新宮市
平成３年	共に学ぼう　～新・コンピュータのすすめ～	新宮市

近年，大学と地域社会との結び付きへの要求が強まる中，これからの大学の公開講座はどのようにあるべきかを探るために，各地域教育委員会などの行政者，各地域住民，公開講座受講経験者を対象に，主として希望する講座内容についてアンケート調査を行った。併せて，実施形式，実施の時期，曜日についても調査した。調査票の回収の状況は以下の通りである。

	教育委員会		住民	受講経験者(新宮市)
	発送数	回収数	回収数	回収数
市	7	6	103	
町	40	26	238	
村	7	3	21	
合計	54	35	362	28

年齢別，性別回収標本数

	30歳以下	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳以上	合　計
男　性	23	58	44	32	41	198
女　性	31	46	52	20	15	164
合　計	54	104	96	67	41	444

実施の形式，時期，曜日は選択方式による調査であるが，希望する講座内容については，住民の幅広い要求を知る為に全くの自由回答方式を用いた。当然，複数回答のものが大半である。

希望する講座内容は多岐に渡ったが，参考文献に従って，以下の17項目に整理した。

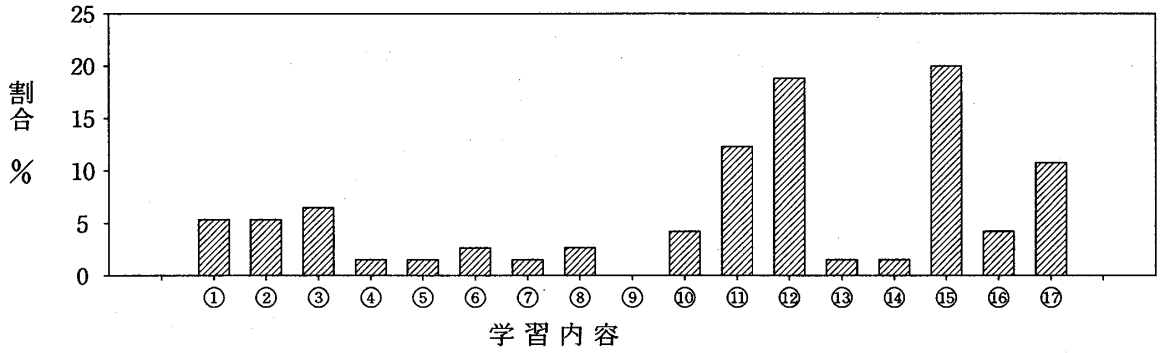
① 健康問題，心理学，人間関係，等
② 環境衛生，環境問題，ゴミの問題，人口問題，等
③ 子供のしつけ，教育問題，等
④ 農業，林業，園芸，地質，等
⑤ 料理，生花，手芸，栄養，食品添加物，等
⑥ スポーツ，レクリエーション，等
⑦ VTR，ワープロ，パソコン，製図などの知識技術，等
⑧ 音楽，絵画，書道等の芸術的内容
⑨ 経営，簿記等の商業的内容
⑩ 同和問題等の基本的人権に関する内容，日本国憲法，法律問題，等
⑪ 時事，国際問題等の政治社会に関する内容
⑫ 文学，哲学，歴史等の教養的内容，文化財，和歌山県史，郷土史，人物史，等
⑬ 英会話，話言葉，短歌，俳句，百人一首等の教養的内容
⑭ 働く女性の生き方，女性の生き方，等
⑮ 生涯教育，生涯学習，社会福祉，日本人論，宗教，等
⑯ 経済問題等
⑰ 地域の将来，活性化，地域文化，町づくり，等

これらに関する単純集計の結果は付録にまとめてあるので参考にされたい。

2．アンケート調査結果とその考察

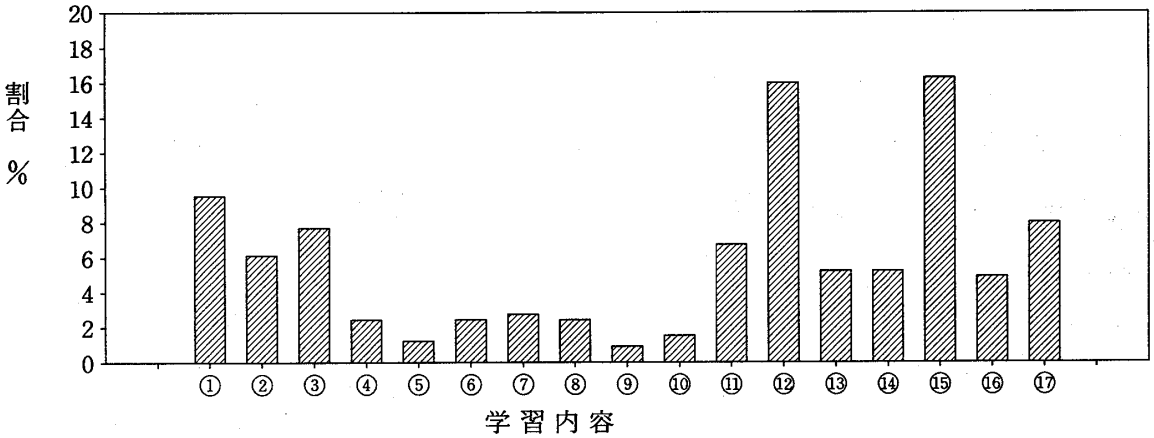
資料－2【教育委員会に対するアンケート集計結果】

希望する学習内容（教育委員会等）
〔希望項目総数：74件〕



資料－3【住民に対するアンケート集計結果】

希望する学習内容（全員）
（希望項目総数：450件）



【資料－2】，【資料－3】に示されている通りこれまでの本学部の主催した公開講座は地域住民の要求を的確に捉え地域住民の要求に応えてきたと考えられる。

しかし，更にこれからの公開講座の為には次の様な認識を持つことが大切であると考えられる。

《地域問題への関心の二方向》

このアンケートの回答における希望テーマの項目では，地域の問題への集中が見られる。地域をテーマとして取り上げるといっても，そこには，区別しうる二つの傾向が見られる。一つは，地域の歴史，文化，自然といった方面への関心であり，もう一つは，地域の産業や，村起こし，町起こしといった町村の生き残りにかかわる現実的課題に向かう関心である。過疎に悩む地域の切実な願いが，町村の行政担当者の課題意識に反映されたものと考えられるであろう。勿論，この二つの方向の関心は，別々のものではなく，地域の課題，住民の生活の在り方の模索という軸を中心に統合的に捉えられるべきであろう。

《生涯学習という課題》

もう一方で，教養講座，文化講座的なものへの要求も，生涯学習と結び付いて，かなり現れて来ている。生涯学習というものが，各地域の行政のレベルで，実際の日程に登ってきているのを見ることが出来る。この要求が，中央の政策的な進展を受けての与えられた課題意識なのか，或は真に地域住民の要求をうけての課題意識なのかは，検討を要するところかも知れない。

《国際情勢への関心と地域問題》

回答の大きな特徴として，国際情勢，環境問題というものへの要求がかなり現れてきていることをあげられるだろう。

国際情勢に対する関心は単なる教養的な知識としてよりも，地域の課題と結び付いた関心として，受け止める必要があろう。回答をよせてくれた行政当局者の中でどれだけ地域課題と結び付いたものとして国際情勢問題が捉えられているかはこれだけの資料では分からないものの，これに応じて，教室を開こうという立場のものは少なくとも，ここをつなげることが要求されよう。

農産物輸入自由化の問題と地域の農業のかかわり，PKF（平和維持軍）への我が国の参加の問

題と県内における若者の自衛隊入隊の問題，地域における雇用不足の問題と大企業がアジア諸国へ安い労働力を求めて進出し，そこで工業製品を安価に作り国内に持ち帰るという方式をとっていることとのかかわり，等これらを広い視野をもって結び付けていくことこそ，大学の講座に求められているものであろうと思われる。

実際，地域住民に対するアンケートの回答の中には，「農産物自由化と今後の農業経営の在り方」，「世界情勢と日本人の今後の生き方」等を希望講座内容にあげているものも多く，地域住民の意識の中に，この芽を見いだすことが出来る。

《環境問題への関心と地域問題》

環境問題についても同様な事がいえるであろう。地域の課題と密接に結び付いて，このテーマがあげられているといえよう。原子力発電所建設の問題，リゾート開発，ゴルフ場開発による自然破壊の問題，野性動物保護の問題など，県内各地で抱えている切実な問題とのかかわりでこのテーマ要求を捉える必要があろう。実際，地域住民に対するアンケートの回答の中に，「くらしと環境保全に関すること」，「生活に関すること，……ゴミ問題や，リサイクル，公害など，地球環境の問題など，また自然の保全，保護等」といった記述が見られ，そこに現れている関心が一つの傾向になっていると見ることが出来る。

このように見てくると，生涯学習を単に趣味の教養講座的なものとしてではなく，身近な地域生活の問題と国際問題，環境問題といったものを結び付けて考えていけるように組織することによって，より深みのある学習が可能になり，地域住民の知恵とエネルギーを高める事に少しでも繋がるのではないかということも展望される。

《教養的講座への要求と「生き方」の学習》

しかしこのことは，教養講座的なものを軽く見る事では勿論ない。それどころか，こういった学習意欲は高く評価されるべきであるし，直接［役立つ］と言う短絡的実用主義を越えて，ものの見方，考え方，感じ方を高めていくことを通して，生き方を高めていく事に繋がる成長のルートこそ，確保されなければならない。今回のアンケート調査においても，全体に渡って教養講座的内容に対する要求は強く見られたし，特に，新宮市の公開講座受講経験者の回答にこの傾向が強く見られた。

また，地域住民に対するアンケートにおいても教養講座的なものの要求と共に，「……社会における生き方」についての学習，「家庭，地域におけるこれからの人間関係」の学習といった要求が同時に同一回答者の中に現れており，生き方の学習と教養的学習が決して分離しているのではないことが示されている。

《行政の課題意識の先行性》

あえて言えば，住民の回答よりも行政担当者の回答のほうが，地域問題に対する意識が高く現れていると言うことが出来よう。熱心に回答してくれているところ程その傾向，つまり地域生活をいかにして豊かにするかということに先行的関心を示している傾向が強い。そして，生涯学習にも高い関心を示している。行政を司るものとして当然の事であるかも知れないが，住民の学習意欲の高まりを待つというだけでなく，意欲を育てる働きかけをするという，行政の一定の役割が果たされようとしているのをここに見ることが出来る，と希望的な観測も含めて述べておく。

地域問題，生涯学習を市町村の行政がどのようなレベルで捉えているか，中央の行政から下ろされたものを遂行しようという熱心さなのか，地域住民の要求を深く捉えた上での関心の高さなのかが，生涯教育の進め方を大きく規定していくことになろう。

《少人数講座とネットワークの必要性》

行政担当者からのアンケート回答の中に，その町村単独では受講生の確保が困難であるというものが幾つか見られた。こういう地域の為には，少人数学級方式の講座が有効であろうと思われる。しかし，先ずは多人数の講演方式の講座を行い，そこから少人数学級方式の講座が生まれてくるというのが考えられる手順だと思われるので，これらの地域では，複数町村に渡るネットワークを作って講座を開く事も考える必要があるであろう。

また，人口数の多い都市部においてもさらに進んだ形を考えていく必要もあろう。例えば，今回のアンケートへの教育委員会からの回答の中に，「定期，定地講座」「県内８地区巡回定期講座」という要求が見られたが（海南市），これらは大学の公開講座が地域により密着し，地域振興への寄与を永続的にしていく一つの方向を示唆してくれているものと思われる。

《回答に表れている大学のイメージ，大学への要求》

今回のアンケート調査の回答には，地域住民の学習意欲の高さ，関心の深さ，多様さが現れていると同時に，そこにはそれに応えるべき大学に対する期待も表明されていると思われる。アンケート回答を逆に読めば，そこに地域住民が和歌山大学に対して描いているイメージと言うものを読み取る事が出来るであろう。一方では，多様な教養的な学習テーマに応えてくれる大学であり，他方では地域の諸問題を広い国際的視野から共に考えていってくれる大学というイメージを，現在そうなっているかというより少なくともそうあって欲しいという期待を強く含んだものとしてであろうが，読み取ってよいと思われるのである。

3．謝　　辞

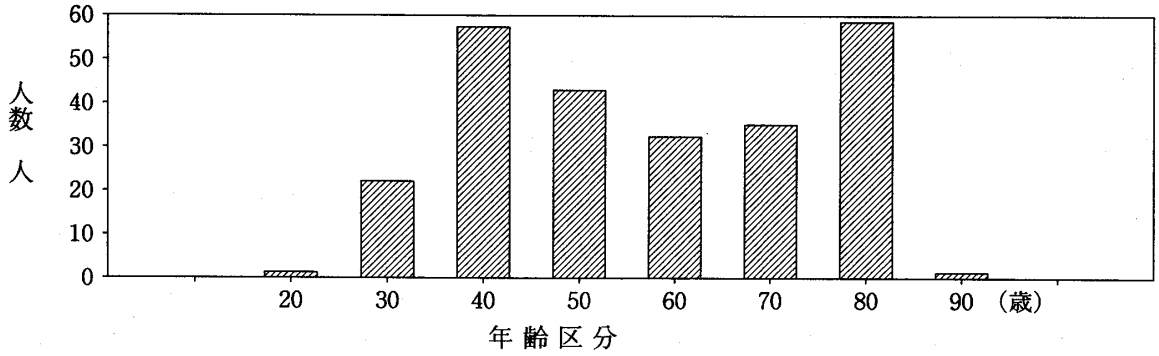
今回のアンケート調査に対して熱心にご回答くださると同時に，また地域住民へのアンケート調査にご協力くださいました各市町村教育委員会，並びに，資料の整理にご協力くださいました，教育学部教務係長をはじめ係員の皆様に厚く感謝いたします。

〔参考文献〕

１）住民の教育に関する関する意識調査　平成元年　９月　上富田町教育委員会
２）心豊かな町民となるために　上富田町教育委員会

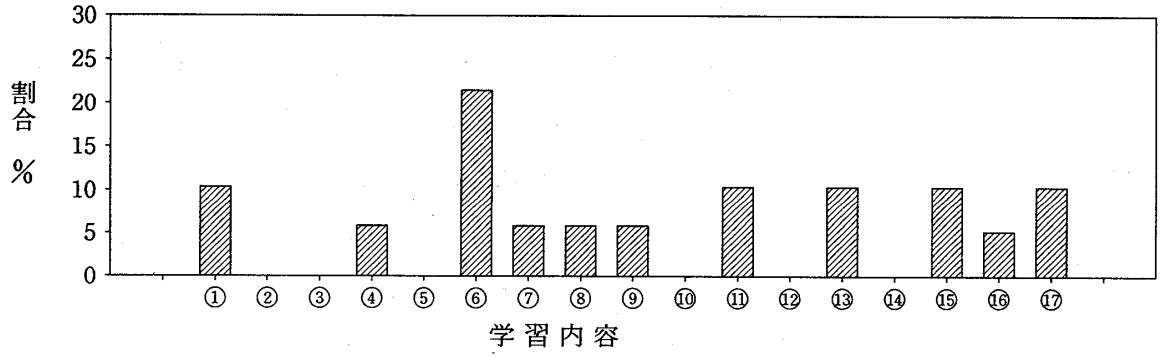
付録1

回答者の年齢構成（男性）
（公開講座に関するアンケート）



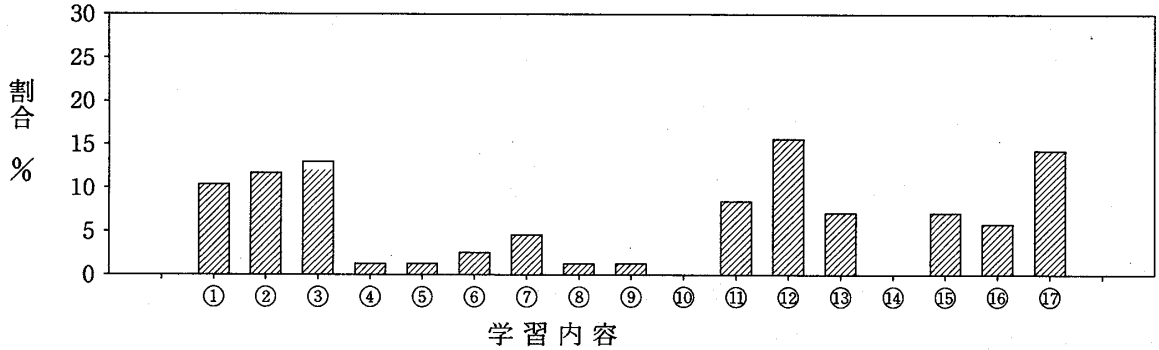
付録2

希望する学習内容（30歳以下の男性）
（23名）



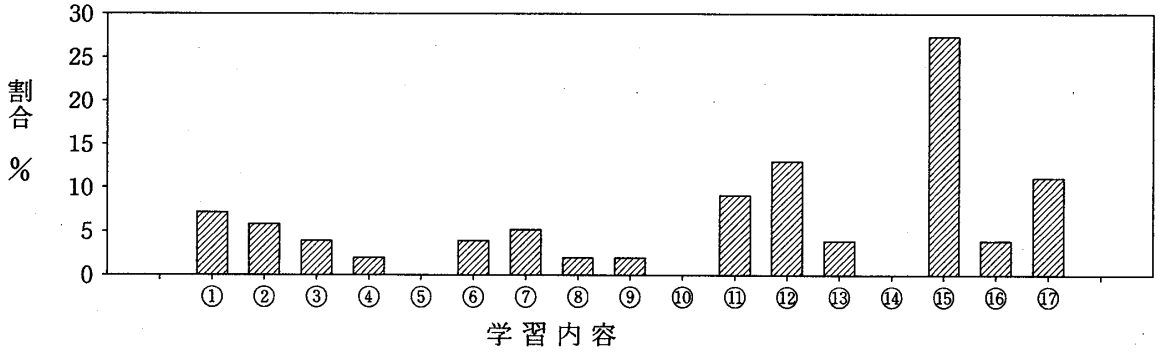
付録3

希望する学習内容（31～40歳の男性）
（58名）

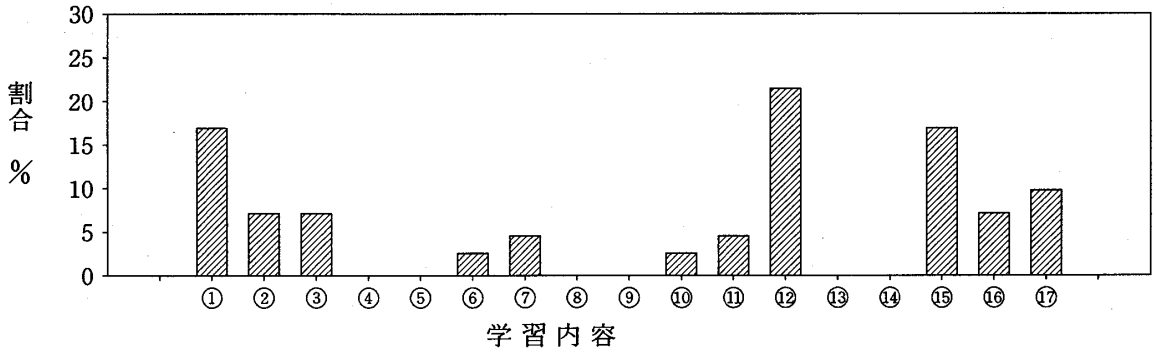


付録4

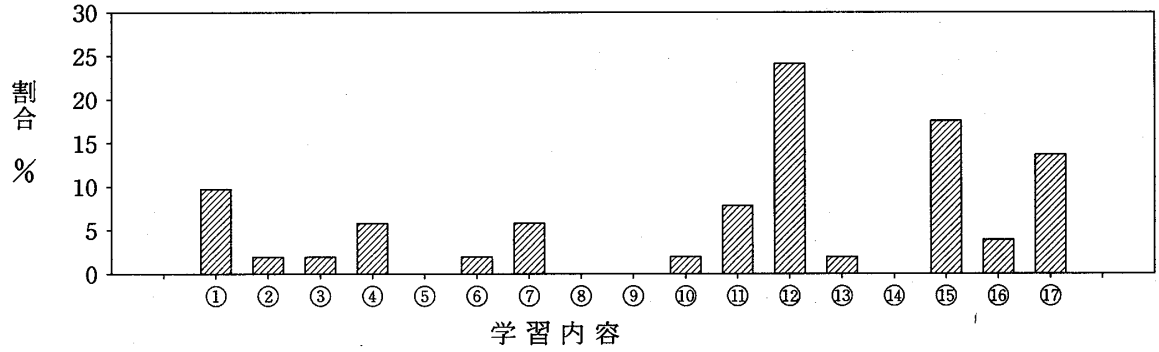
希望する学習内容（41～50歳の男性）
（44名）



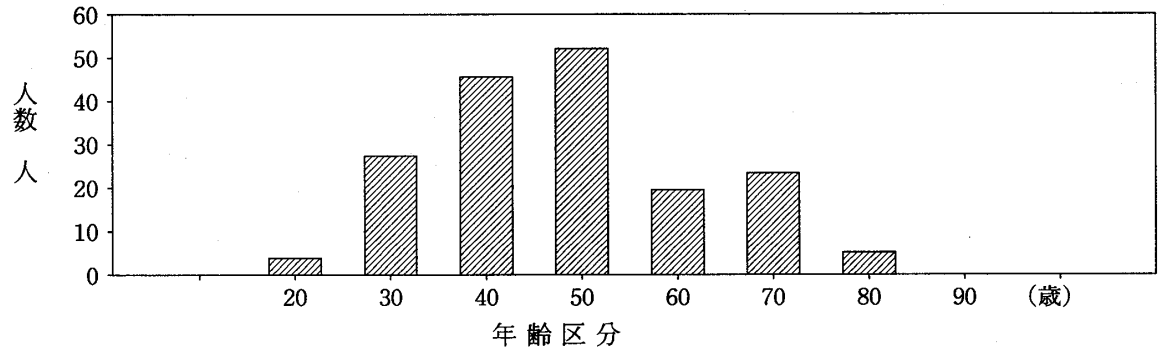
付録5　希望する学習内容（51～60歳の男性）
（32名）



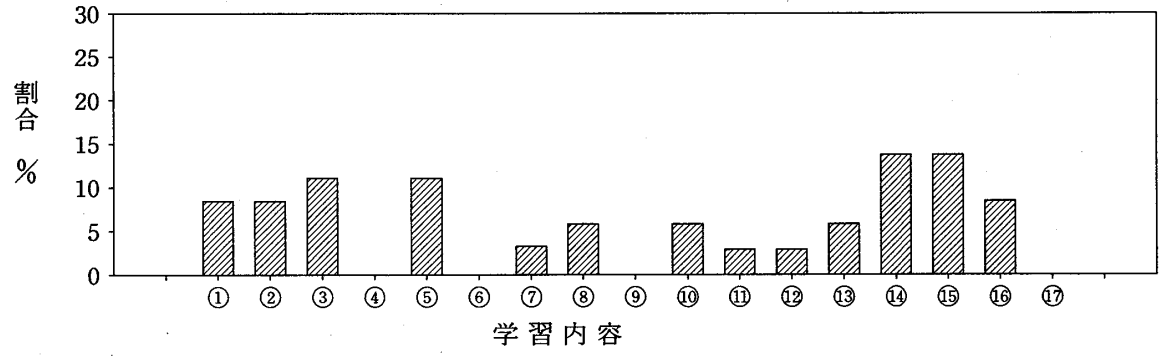
付録6　希望する学習内容（61歳以上の男性）
（41名）



付録7　回答者の年齢構成（女性）
（公開講座に関するアンケート）

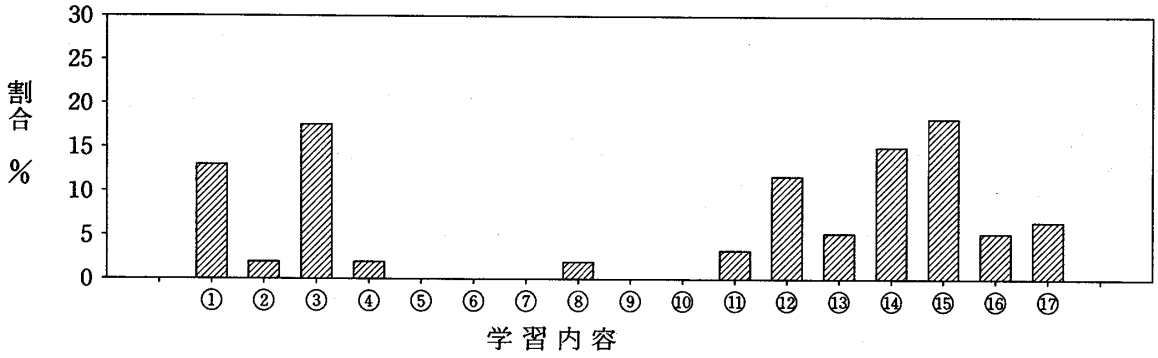


付録8　希望する学習内容（30歳以下の女性）
（31名）



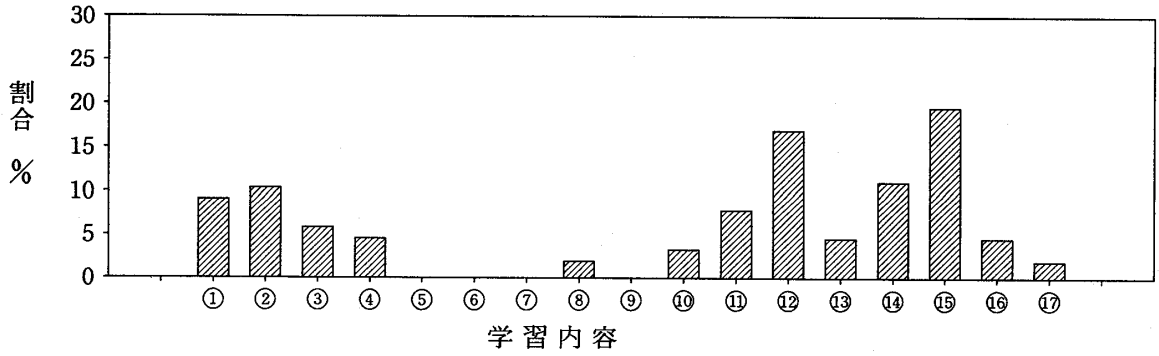
付録 9

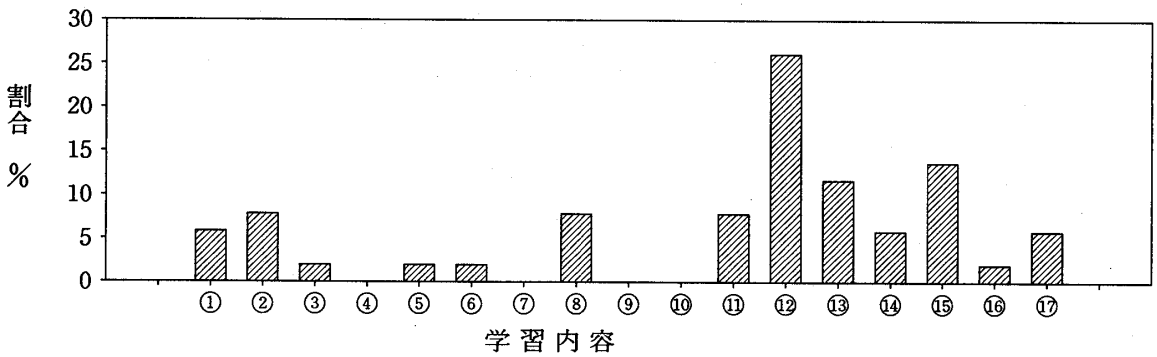
希望する学習内容（31～40歳の女性）
（46名）



付録10

希望する学習内容（41～50歳の女性）
（52名）



付録11

希望する学習内容（51歳以上の女性）
（35名）